

第68回 横浜市公立大学法人評価委員会会議録 (案)	
日 時	平成28年7月29日 (金) 14時～16時00分
開催場所	市庁舎 5階 関係機関執務室
出席者	川村委員長、蟻川委員、岡本委員、大久保委員
欠席者	有賀委員
開催形態	公開 (傍聴者 0名)
議 題	1 第67回横浜市公立大学法人評価委員会会議録 (案) について 2 平成27年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績評価について 3 平成27事業年度財務諸表の承認について 4 その他
決定事項	
議 事	<p>【川村委員長】 第 68 回の横浜市公立大学法人評価委員会を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より配布資料の確認をした。 <p>議題 1：第 67 回横浜市公立大学法人評価委員会会議録 (案) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より資料 1 の説明をした。 <p>【川村委員長】 それぞれお目通し頂いているので、これで確定し、ホームページでこれを公開する。</p> <p>議題 2：平成 27 年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画における業務の実績評価について</p> <p>【川村委員長】 27 年度の業務実績評価について、資料の 2-1 にあるように、委員の皆様からコメントや S、A、B の評価をつけていただいたので、今日はこの評価について委員会としての意見を確定させていただく。評価の結果がまとまると、地方独立行政法人法の規定の通り、法人に通知し、設立団体の長である市長に報告することになっている。そして市長はそれを議会に報告するという手順になっている。</p> <p>まずは前回、皆様からいただいた質問事項について法人から補足説明があるので、先に法人から説明をお願いします。</p> <p>法人より前回の補足説明をした。</p> <p>【川村委員長】 それでは、資料 2-1 と資料の 2-2 について事務局から概要を説明してもらい、ご意見を頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明をした。 <p>【川村委員長】 評価の特に A、B と分かれている部分についてご意見を頂き、この委員会としての評価を固めたいと思う。資料 2-2 の上の方の I の大学の教育研究等の質の向上に関する目標、この部分は全員一致で A という評価なので、A ということでよしいか。教育に関する取組、研究の推進に関する取組、実施体制に関する取組、すべて A とする。その理由については、各委員から資料 2-1 の方に書いていただいている。評価書の最終的な作りとしては、S、A、B の評価に加えて委員の意見を書き込み、事務局で整理してもらおう。その時には資料 2-1 に書き込んでいただいたことはできるだけ評価書の方に書き込んでいただきたい。間違いがあってはならないので、後ほど文書で確認していただく。</p> <p>それでは次に附属 2 病院に関する目標について、全体の評価は A で全員一致しているということで問題ない。ただ、内訳の 1、2、3 について意見が分かれていて、まず 1 の医療分野・</p>

医療提供に関する部分で、1人がS評価をつけているが、ご意見伺いたい。

【蟻川委員】Sを付けたのは私で、規定だと目標通りにやればAで、それ以上ならばSという基準でつけた。それからもう一つ、全体を通して相対的にこの分野は他の分野のAよりも良いのではないかという評価と、全体の中で少しメリハリを付けた方が良いという気持ちもあって、ここをSとした。ここでは特にがん治療とか、救急医療とか、災害時医療の推進に取り組んだということで、がんの医療がさらに推進にしたということとともに、重症外傷患者の早期治療が可能になったということは、地域への貢献もしていることで、優れた評価をしても良いと考えてS評価とした。

【川村委員長】全体というのは、附属病院全体、あるいは教育研究等大学の運営も全部合わせてという意味か。

【蟻川委員】教育研究も全部合わせて今年度の評価をするときに、全部が目標通りに行った中で、特にこの医療分野は他の分野より、色々な面で評価できると考えた。毎年迷うが、評価を付ける時にメリハリが必要だと思うし、今まではAがBで、SがAということだったが、以前はずっとBという、停滞しているような感じがした。評価というのは良いところは誉める、悪いところは改善を求めるといふように、全部が普通通りできたと言うよりは、ここは他よりも少し良かったと言うような、評価の仕方もあるのではないかと。ただ去年は確か委員長と私がA評価にしたところを、話し合いでBにした経緯もあり、今回医療のところでもかなり迷って、最初にAを付けたがメリハリを付けた方が良いと考え、訂正をしてSを付けた。

【川村委員長】お気持ちはよく分かるし、この政策医療の部分は私もよくやっておられると思う。さきほども補足説明があったような重症外傷センターにしても、私も同感だが、基本的には計画通りであろうということでAとさせてもらった。そうするとここはSが1人で、他の委員がAなので、多数決にしてよろしいだろうか。

【蟻川委員】私も最初はAを付けたものの、気持ちの中でSを付けたかったというものなので、問題ない。

【川村委員長】温かいお気持ちだけ頂いてAということにさせていただく。さて、その温かいお気持ちで2の医療人材育成、ここはSが2人で、うちお1人は蟻川先生。人材育成の部分は意見の分かれるところで、有賀先生は附属病院の部分は全部Aをつけていて、まさしく専門家のお立場で言えばそういうことであろうかと思うが、今蟻川先生が述べられたように、我々が病院の外部ないし素人の立場から見た場合によく光って見えるところは誉めた方が良いという気持ちからということであろうか、Sが2つ付いているということで、いかがか。

【大久保委員】蟻川先生と付け方のレベルは似たところがあるが、実績報告を読むと非常に細かい施策をずっとやってきておられる。その一個一個を点数化したら、よくやっているものもあれば少し残念なところもある。しかしトータルとして先ほどの医療分野の政策的医療の問題もそうだし、それを支える人材というところに注目していて、そこは着実にやっておられる。継続してやっていて、それが結実したのではと感じていて、ここはAというレベルよりは、メリハリという意味で注目して見た方が良いと思う。他の病院との比較よりも、あくまで横浜市大の絶対評価なので、そこのプロセスが予定よりも上がっているものがあれば、少し加点という部分はあっても良いのではないかと思う。後ほど言うが、ディフェンシブでしっかりやらない所に対しては、私は厳しい視点を持っているから、本業のところでも前向きなところは見てあげる、むしろクローズアップしても良いのではないかとSを付けた。

【岡本委員】私もここはAはつけたが、評価に迷った所でもあり、メリハリの話が出たが、同じように誉めるべきところは誉めるべきで、それは病院だろうということを感じていた。全体としてはAで、この医療人材の育成等に関する取組についてはSでも良いのではないかなと思う。

【川村委員長】ここで内容的には例のマッチング率の話が出ていて、マッチング率が非常に高

かったということが、評価の大きな要素になっているかと思う。しかし有賀先生によると都市部の大学では100%が当たり前ではないかというご意見だった。しかし大久保委員が言われたように、それだけではなくて、人材育成全般にいろいろな取り組みを着実にやっておられると思う。私は、看護キャリア開発センターというのを作って、病院と看護学科ときちんと連携させ、看護学科の卒業生が、県内の特に本学の病院に就職するというようなルートをはっきりさせ、病院の看護師採用充足率も改善されている点について、私は非常に良い取り組みをしたと思った。そういうことも含め大久保委員も言われたように、様々な取組をしているという点で、私も迷ったが、これはAかSかと考えた。法人の評価はAだったが、皆様の意見を反映させれば、この医療人材の育成は、有賀先生にご了承いただくことを前提として、Sということによろしいか。それではここはSとし、先ほどの医療分野はAとする。

もう一つ、3の医療安全管理体制、病院運営のところはSが1人だが、いかがか。

【大久保委員】これも私で、Aにしようかどうか迷ったが、運営をやるにしてもそれを担う人材と環境というのを、どうやって整備するかが重要で、そこをきちんとやって結果を出しているのは、加点的な見方をしても良いのではないかと。ただ、他の委員がAということを加味すると、私はAでも構わない。医療人材の育成、政策医療や医療の安全管理体制については市大の中でも世の中に対して貢献できる非常に大事な部分なので、ポジティブな部分に対しては前向きに見てSにしたが、Aでも構わない。

【川村委員長】私はAという評価していて、その理由は、中期目標の目標値を掲げて、例えば病床利用率が90%以上について達成できていないことや、特に医薬材料費率の改善が、かなり厳しくなっているというような問題が目についてくる。そうすると次の議論だが、両病院とも収支が赤字決算になったということはどこでどのように評価をするのか、評価の場所がよくわからないので、赤字決算の部分は法人の経営の問題だろうと思い、そちらに回した。そうすると、さきほどのデータの医薬材料費の問題云々というのがあって、これはAと判断した。

【岡本委員】私もそこは全く同じで、病院運営といった場合、収支、あるいは目標の達成度はどうしても避けては通れない話だと思う。収支に関しての評価が、ここと法人の経営に関する部分にあり、両方の評価に加味したが、私もどちらに付けるか迷ったが、Aではないかと。それから、医療安全に関する取組は形として改革と書いてあるが、ある程度の期間において、事故が起きないという実績が出てから、今作られている仕組みの効果の検証をすべきで、現時点ではAという評価にした。

【川村委員長】それでは3番目の医療安全管理体制・病院運営はAということによろしいか。次に法人の経営で、まず1の業務運営の改善でBが2つ。2の財務内容の改善これはBが1つ。ここはかなり厳しい結果になっている。法人経営全体について話し合う前に、まず1番の業務運営の改善でBが二人ということで、いかがか。

【大久保委員】ここは私だが、様々なセクションや部署で前向きなことを一生懸命にやっている。しかし世の中どの組織でもガバナンスあるいはコンプライアンスが崩れた時には、日ごろ一生懸命やって目標を達成しても、世の中の評価は厳しくなる。いくつか事例が出ていたが、研修とか周知ということだけではなくて、ある種、飴と鞭、そういった仕組みづくりも含めて具体的に検討していかないと、「やってはいけない」という周知は、言われれば誰でも分かる。しかし、現実になぜそれが起きているか、もう少し実態を解明するべきで、そのための仕組みづくりと、対策を具体的に打っていかないといけない。一時期こういった事故が出なくても、また何年かすると出てくるようなことを感じた。だから、もう少し具体的な仕組み、いわゆる本当の理由、真因分析をしっかりとやったうえで、そこを職員がきちんと理解する所まで掘り下げた仕組み、対策を作っていかないと、またどこかで出るのではないかという不安を感じる。これが1点。

財務のところでは、収入やコストは色々な要因があり、予算からの増減はあり得ると思う。しかし、年度当初、あるいは予算を策定する時に織り込んだ数字とその差異は何が原因で、何が問題でコストが増えたのか、それはやむを得なかったことなのか、そのコストは将来を見ればプラスに転化するようなコストなのか。コストの分析と予算単位の検証というのが、少し弱いような気がする。

以上の2点から、ここはどういう経営でも一番ベースになるところで、前向きなことを一生懸命やる所はできるだけ加点して、良い意味でドライブをかけて欲しいと思うが、ガバナンス・経営にかかることは一旦崩れ始めて看過すると、立て直すのに時間がかかるので、ここは厳しく評価した。

【岡本委員】私も最終的に全部Aをつけているが、Bを付けるかと思ったところだ。その主な要因は、大久保委員と全く同じで、一つにはコンプライアンスの問題、もう一つは財政的な収支構造の問題。コンプライアンスについては、個人的な資質とかそういうものを見抜けない部分があるので、やむを得ない側面があるかと思う。早目に発覚して、それに対して適正な処置がとれるような仕組みが非常に重要であって、そこが不足していたのではと感じた。ただAをつけたのは、それ以外の項目の業務運営の改善に関する取組や情報の管理や発信に関する取組は、それなりにやっけていて、非常に迷ったところだ。喝を入れるという意味では、Bにすべきかと思う一方で、Bにすることで逆に市民の方へ問題だという印象が持たれることも怖いというところはある。

財務内容の取組でAをつけた理由は、これは次の中期計画のところで言おうと思っていたが、実施報告書にある計画書の項目、財務内容の改善に関する取組で色々な項目が挙がっていて、それ自体の達成については間違いなくAだと思う。全体の財務内容については結果的に赤字になっているので、計画に挙がっている項目自体が適切だったか、あるいは十分だったかという点がむしろ問題かなと強く感じるので評価に迷う所だ。項目の達成ということで評価すればAだが、項目の表題だけを見て、財務内容の改善に関する取組はというと、Bかなと思う。その評価の仕方、それは計画の立て方自体に、計画の取組方針とか、大きなところはこの評価委員会でも話や意見も出るが、個々の項目については、計画段階ではこの評価委員会では意見を言う機会がなく、特に財務内容の改善に関する取組は項目が少ない。果たしてそれで足りているのかと疑問に思っている。だからメリハリをつけ、足りないところは指摘するという意味ではBを付けてかまわない。

【川村委員長】蟻川委員はいかがか。

【蟻川委員】私は目標通りと判断してAにして、特にBを付けようとは考えなかった。それこそメリハリと順序を考えればそうなるが、この部分は大学自身の評価もAで、私も素直にそれはAと評価した。

【川村委員長】蟻川委員は、前回たまたまご欠席で、前回の冒頭に教職員の不祥事の報告があり、それも4件もあったので、さきほど大久保委員と岡本委員からコンプライアンスの話が出た。ここの法人の経営に関する評価の問題は、今回出てきたことに象徴されるコンプライアンスの問題と、もうひとつは、前回の決算報告において、法人化以来初めて全体で赤字決算となったという2つをどう考えるかであろう。たまたま蟻川委員はご欠席だったので、ショックが足りなかったのかもしれない。

【蟻川委員】報告は頂いていたが、この場にいなかったもので、ショックの程度が違うのかもしれない。それにしても、前にもUSBメモリの紛失などあった。私ども普通にやっていたら、こういう問題はそれほど起きないものだが、毎年色々なことが起きているのはなぜなのかと思うことはある。新聞に報道されるような事件が起こるとするのは、どこかコンプライアンスに問題があるとは感じていた。

【大久保委員】コンプライアンスや財務決算で色々予定通り行っていない、あるいはこのような不祥事が起きているというのは、風土というところに大きく影響があるのではないかと思う。ただこれを直すのは非常に難しい。具体的には、職員のところで、各部門の先生方の評価という話があった。評価の仕組みというのは、我々民間も同じだが、その会社の風土に大きな影響を与える。評価の仕組みの中に、民間であれば前向きな成果だけではなくて、通常の社会的な組織としてやらなければいけないルール、法令等については、相当厳しいものだ。それが繰り返されながら組織や所属している職員にも根付いていく。そう考えると、評価、人材育成、人事制度をひとつのツールとして、ここを具体的に何か改善していけば、もう一回考えれば、ひいてはさまざまな不祥事が起きないといったことにも繋がっていくのではと思うので、これ

は個別の問題ではないと思う。先ほども言ったように真因は何か、本当になぜこれは起きているのだろうか、その意識を一人ひとりがもっと高める必要がある。組織人は、自分が良く見られているか、そうでないかということが重要な要素なので、そこをガバナンスをする立場の人は、そこを有効に使っていく仕組みをもう少し考えたらどうかと思う。今はまだそこまで行っていないので、期待を込めて厳しめの評価を付けた。

【川村委員長】コンプライアンスについては、今の大久保委員の意見と私も同様だ。また、蟻川委員と私は少し長くここに関係させて頂いているので、なぜこれだけ不祥事が起こってしまうのか、疑問に思っているところだ。大変申し訳ないが、市大の組織の風土がほかの大学と少し違うのではないかとすら思うようになった。少し違うというのは、マイナスの意味で良くないという意味だ。なぜそうなのか、真因を探れということで大久保委員は先ほど言われたが、組織の体質まで遡って探って、具体的な仕組みを作ってそれを根付かせていくという努力が少し足りないのではないかと。だから一度不祥事が起こると、コンプライアンスの研修や対応などをやって、またしばらくすると起こってということがいつまでも繰り返されるので、やはりこの際は本当の理由、我々外部の人間がここは他と違って何か変だと思ってしまうようなことがあるという、そここのところを徹底的に整理していただく。今回たまたま案件が多かったが、公立大学法人として独立した組織なのだから、せめて社会の普通の組織並みの風通しの良い、きちんとメリハリのついた組織にしていきたい。これは切にお願いしたいと思っていて、私はBにした。

それからもう一つの決算の方は、先ほど岡本委員が言った通りで、これは評価の仕組みに問題があると思う。評価の項目に例えば「適正な収支バランスを確保すること」というような項目がそもそもない。だから財務内容の改善の事項では運営交付金に関する事項とか、自己収入をいかに増やすか、経営の効率化でいかに電気代を節約するかというようなことが年度の計画ないし評価の項目になっていて、法人全体の運営として一番大切な収支バランスには触れていない。バランスを必ず黒にしろと言う意味ではない。事業内容にふさわしい適正なバランスが確保されているかという評価項目がないと、評価ができない。だから私もこれは非常に困って、財務内容はAをつけたが、法人の経営全体ではBとした。それはさきほどのコンプライアンスの問題と赤字決算の問題。赤字決算の方は財務内容改善の個別の項目では評価できない仕組みになっていて、非常に困った。

今回の財務内容改善のところ、評価項目がないのにBを付けるというのはどうかと思ってAにしたが、法人の経営全体の目標という大きな項目で見ればBとせざるを得ないと考え、全体はBとした。こうした仕組みを考え直していただきたいというお願いは是非次期に引き継ぐということにしたい。私の気持ちを言えば、Ⅲの法人の経営に関する目標はB、1の業務運営の改善もB、2の財務内容はAだが、収まりが良くない。委員会として意見をまとめなければいけないので、他の意見をお願いしたい。

【蟻川委員】そうすると、業務運営の改善に関する取組のところはAとBに分かれているので、今岡本先生がBにしても良かったというような話もあったので、私もこれはBに変更しても差し支えない。

【川村委員長】それでは業務運営の改善は、残念ながらBという評価にさせて頂く。次に、財務内容の改善の部分についてご意見伺いたい。

【岡本委員】財務内容の改善に関する取組を、私はAをつけたのは、先ほど言ったように、計画している項目を個別に見ると達成されている点によるが、赤字は継続的に赤字というわけではなく、今回初めてだと。次年度どうなるのかというのはまだ見えていない。次年度も同じ傾向で更に拡大すると非常にゆゆしき問題だが、次の中期計画なり、あるいは28年度の決算で議論したい。全体評価をBということに異論はない。

【川村委員長】法人の経営全体、Ⅲのところですね。

【岡本委員】財務内容は迷うところだ。

【川村委員長】先ほど言ったように、財務内容の改善の部分にはそのような評価項目はない。

両病院を通じて赤字決算になったというところまで評価していいのかという意見だが、大久保委員いかがだろうか。

【大久保委員】この件だけ言いますと、Bでないといけないということに拘っているわけではない。ただ、赤字か黒字かというのは予算があって、予算の達成に向けて経営が努力するということなので、一番重要なのは、たとえ赤字になったとしても、その原因がはっきりしていて、それが一時的なのか、これを放っておくと、ある時期以降に何か影響を及ぼすような赤字の要因が大勢としてあるのかどうか、そこがはっきり示されて、それに対する対応策めいたものが次年度に出てくるのであれば、これは財務戦略という観点から言えばおかしくない。だから、法人側に望みたいのは、先ほど言った通り、予算の時は色々なことを考えて予算づくり数字づくりをしたわけだから、結果との差異が一時的なのか、あくまで今後もそういったことは続くのかということ、それを時期以降の予算の中にどうやってそれを適正に織り込んで予算を作るのかということの、PDCAが回っていくのであればよい。それは黒字に越したことは無いが、そうではなく投資を積極的に行えば、前向きなものだろうと費用はかかるのだから、きちんとPDCAというのが明確に回っていくなら、Aでも構わない。ただ説明を聞いているだけでは少し説明が足りない印象がある。そこは財務を司る職員の方々が非常に重要だと思う。だからBには拘っているわけではない。

【岡本委員】今のことに関して、私はこの決算内容の概要説明の書き方には不満があって、収入がこれだけ増えて、これだけ寄付があって結果として赤字になったという書き方。根本的な理由、例えば今回赤字になった大元の原因がどこにあるかという深い分析が、全然書かれていない。前回私は、赤字の原因分析が不足しているとあったが、厳しいことを言うが、財務を主とする部門の全体としての力不足なのではないか。大久保委員が言われたような予算管理ということも含めて、そのように感じた。

【川村委員長】大久保委員のご意見はまさにその通りで、私も先ほど言ったように、この27年度の評価項目というか年度計画の出来が良くなって、人件費を適正に管理しているかとか、寄付をたくさんもらっているかなどということが計画の主な内容になっている。ご意見にあったように、事務管理をきちんとして、PDCAサイクルを回してきちんときちんと予算を立てて、それを実行しているかというのは、あえて読めば中期計画の事務改善の効率化の項目であろう。そこには「大学・附属2病院の緊密な連携のもと、適正な経費執行や法人化以降導入してきた事務改善の取組についての継続的な見直し等により経営の効率化を推進する。」とされている。ただこの部分の年度計画としては、発注契約手続き業務に係る事務の負担軽減および効率化を一層進めるため、各種マニュアル等の整備云々ということしか書かれていない。赤字決算について、そういう意味での計画というか評価項目がないということになる。繰り返しになるが、これは年度計画自体の方に問題があるというべきで、それでBに踏み切れなかった。法人が年度計画はきちんとやっていると言えば、その通りと言わざるを得ない。それではここは法人の経営全体はB、そのうちの1の業務運営はB、財務内容はAということにさせていただく。

次に、IVの自己点検評価等の部分は、すべてAの評価なので、全体を通してA評価とする。項目は以上だが、事務局で確認してください。

【事務局】それでは、議論いただいた評価を確認させていただく。

まずI、大学の教育研究等の質の向上に関する目標はA。

- 1、教育に関する取組もA。
- 2、教育の推進に関する取組もA。
- 3、教育研究の実施体制に関する取組もA。

続きましてII、附属2病院に関する目標はA。

- 1、医療分野・医療提供に関する取組もA。
- 2、医療人材の育成等に関する取組、こちらはSで、事務局の方から有賀先生に、今日の議論についてお伝えする。
- 3、医療安全管理体制・病院運営等に関する取組はA。

III、法人の経営に関する目標を達成するための取組はB。

- 1、業務運営の改善に関する取組もB。

2、財務内容の改善に関する取組はA。

IV、自己点検・評価・認証評価及び当該状況にかかる情報の提供に関する目標はA。委員会としての評価は以上ということでご議論いただいた。

【川村委員長】それでは27年度については以上のような形で委員会としての意見をまとめさせていただく。ただ先ほども言ったように、評価書はS、A、Bだけではなくて、それぞれ事柄の取り扱いによって文章表現でも書き込まなければいけない。いま話に出たコンプライアンスの問題や決算の問題などやや重い問題は、従来の扱いだと、全体の総括的な事項の中で取り上げて、各項目についてはやや具体的なものを取り上げるというふうな書き方だったと思う。前例も見ながら事務局で整理して、それを委員の方にはもう一度よくお目通し頂きたい。それを踏まえて次回に評価書として決定するというところでよろしいだろうか。次回までの間にまたひと作業をお願いしたい。

【蟻川委員】文章を作成するにあたり、学生の英語力のアップとかプラクティカルイングリッシュの単位取得の学生が大幅に上回って、アドバンスドコースを受講する学生が多くなったとか、英語以外の外国語を取る学生も増えたとか、これは一種のグローバル人材の育成の養成の目標の一つがだんだんと達成されてきたのではないかと思う。教育というのは毎回言っているように、一気に飛躍するものではなく、月日をかけて向上するもので、私は委員に就任してからずっと拝見していると、徐々に英語力が身についた学生は増えていて、結果を出している。そういうことはSとかAとか直接目には見えないが、文章の中に織り込んだら良いと思う。質の高い学生を取るということは大学にとって大事なことで、入試の検討委員会などができて、現に推薦入試等によって質の高い学生も入ってきている実績もあるので、教育の効果も上がっている事を盛り込んで書いていただきたい。

【川村委員長】今、蟻川委員からのご意見は、この総合的な評価の備考のところ、蟻川委員が指摘されていることである。優秀な人材の確保、国際化の推進、学生の外国語力の躍進などをできるだけ評価書で触れていただきたい。要するに、総合的なコメントに各委員が書かれたことはできるだけ文章表現に取り込んでいただきたい。学校経営の取組で、ガバナンスを含めたタテ、ヨコの改善、強化のことなど有益な意見が書いてあるので、できるだけ盛り込んで欲しい。

それでは、事務局からの連絡に移る。

- ・事務局よりこれからのスケジュールの説明をした。

議題3：平成27事業年度財務諸表の承認について

【川村委員長】これもご承知の通り、設立団体の長である市長が、法人の財務諸表の承認を行うにあたっては、この評価委員会の意見を聞かなければならないということが法律で定められているので、評価委員会としての意見の取りまとめをさせていただく。財務諸表の内容自体については、前回の評価委員会で法人から説明があり、委員から意見もあった。さらに意見や質問があれば頂きたい。

【川村委員長】それでは、特にご意見もなく、内容についての質疑も終わっているので、それではこの財務諸表の承認について、承認をするという意味の意見書をまとめていく。

- ・事務局より意見書（案）の説明をした。

【岡本委員】利益承認についての記載は無いということだが、損失の処理に関する意見は述べなくても良いのか。

【事務局】法令によると、毎事業年度、利益を生じた時は、その残余の額は積立金として整理しなければならないという項目があり、その残余があるときは、設立団体の長の承認を受けて、剰余金の使途に充てることができることとある。この承認をしようとする時は、あらかじめ評価委員会の意見を聞かなければならないという規定はあるが、毎事業年度損失が生じたときは、積立金を減額して整理し、なお不足があるときは繰越欠損金として整理しなければならないとい

	<p>う義務規定になっておりますので、特に承認というような手続きの規定はされていない。</p> <p>【岡本委員】 了承した。</p> <p>【川村委員長】 意見書の案について、内容的にはこれでご承認頂くということによろしいか。それではご承認いただいた。</p> <p>・事務局より連絡事項の説明をした。</p> <p>【川村委員長】 以上で第 68 回の評価委員会を終了とする。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>[配付資料]</p> <p>資料 1 第 67 回横浜市公立大学法人評価委員会会議録（案）</p> <p>資料 2-1 平成 27 年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する各委員評価一覧</p> <p>資料 2-2 各委員のまとめに向けた総合調整項目</p> <p>[参 考]</p> <p>公立大学法人横浜市立大学関係資料</p>